

## ■ 会員新作情報

■ 中村元哉会員、大澤肇会員、久保亨会員、田中仁会員、杜崎群傑会員、吉見崇会員、山口信治会員、王雪萍会員、河野正会員



著書名：現代中国の起源を探る—史料ハンドブック  
著者：中村元哉（津田塾大学） 大澤肇（中部大学） 久保亨（信州大学）  
発行年月：2016年10月  
出版社名：東方書店

本書は、政治・思想史や経済史、教育史、軍事史、民族政策史など12の章にジャンル分けをし、各ジャンルの専門家による「研究状況」と「史料紹介」が記述され、必要に応じて詳しい「史料解題」が付される。「補論」として、関係するデータベースの利用状況などを全面的に紹介している。巻末には、約50頁にわたる「研究文献・史料一覧」を附す。中国を詳しく知りたい人には、ぜひお勧めしたい1冊である。

## ■ 張兵会員



著書名：訪日中国人から見た中国と日本—インバウンドのあり方—  
著者：張兵（山梨県立大学）  
発行年月：2016年09月  
出版社名：日本僑報社

訪日中国人に関する文献が増えつつあるが、その多くは、「爆買い」や情報の発信など特定の項目に焦点を当てた報道または市場攻略ガイドであり、マクロ視点の本格的な研究はまだ少ない。本書は公表されている各種のデータに基づき、中国人訪日旅行の現状と未来、またその背景となる中国の諸事情について概観し、あわせて訪日中国人から見た日本及び日本におけるインバウンドのあり方について解説、議論を行うものである。

## ■ 貞好康志会員



著書名：華人のインドネシア現代史—はるかな国民統合への道  
著者：貞好康志（神戸大学）  
発行年月：2016年07月  
出版社名：木犀社

インドネシアへの中国移民と子孫＝「華人」を焦点にすえた同国近現代史。オランダ植民地時代に華人の一部に芽生えた「インドネシア志向」のナショナル・アイデンティティが、独立後、激動する政治社会環境との応酬のなかで、反華人暴動などの試練を乗り越え成長する過程を辿る。同時に、華人問題への取り組みを契機に、インドネシア・ナショナリズム自体の成員決定原理が「血統主義」から「属地主義」に移行したことを論証する。

## ■ 阿古智子会員



著書名：超大国・中国のゆくえ 〈5〉 勃興する「民」  
著者：新保敦子（早稲田大学），阿古智子（東京大学）  
発行年月：2016年07月  
出版社名：東京大学出版会

急速な経済成長の陰でさまざまな矛盾を抱え、引き裂かれる中国社会において、社会の断裂はどのように乗り越えられるのか。本書では格差の構造や揺れ動く言論空間において苦闘する人々の姿に迫り、社会変革を阻む要因を抉り出し、中国社会のゆくえを考察する。

■青山瑠妙会員、 巖善平会員、 朱建栄会員、 田中修会員



著書名：2020年に挑む中国：超大国のゆくえ  
著者・編者：巖善平・湯浅健司・日本経済研究センター 編(同志社大学・日本経済研究センター)  
発行年月：2016年07月  
出版社名：文眞堂

短期的な経済の動向だけでは中国の実力は判断できず、中国指導部が目指す方向を見誤ると、将来は予想できない。本書は日中の第一線の研究者がテーマ別に分析、2020年の「100年目標」達成に向けて現在、中国の指導部が何を考え、どのような方向に導こうとしているのかを明らかにする。

■田村慶子会員



著書名：シンガポールの基礎知識 (アジアの基礎知識)  
著者：田村慶子 (北九州市立大学)  
発行年月：2016年04月  
出版社名：めこん

本書は1人で書いたシンガポールの歴史、政治、経済、社会についての概説書である。本書全体は9章とコラム「シンガポールの10人」からなる。まず最初の「1シンガポールはどんな国か」でイメージをつかむことができ、さらに歴史、政治や経済、社会についての章が続き、丁寧な概説と分析が記述されている。著者が撮った写真もたくさん掲載されているので、写真だけを見ても楽しいだろう。

■菱田雅晴会員、 鈴木隆会員



著書名：超大国・中国のゆくえ3 共産党とガバナンス  
著者・編者：菱田雅晴 (法政大学)、鈴木隆 (愛知県立大学)  
発行年月：2016年04月  
出版社名：東京大学出版会

経済が失速してもなお、中国共産党の支配は持続可能なのか。少子高齢化、都市化、情報化、権利意識の高まりといった新たな状況に対し、習近平政権の改革は功を奏するのか。ガバナンスをキーワードに、アクターと制度・政策の連関のなかで中国政治を読み解く。

第2巻・外交 (天児慧、青山瑠妙)、第4巻・経済 (丸川知雄、梶谷懐) に続くシリーズ第3巻【シリーズ全5巻／第3回配本】

■永井史男会員



著書名：地方からの国づくりー自治体間協力にかけた日本とタイの15年間の挑戦  
著者：平山修一(株式会社シーエスジェイ)・永井史男 (大阪市立大学) ・木全洋一郎 (JICA)  
発行年月：2016年03月  
出版社名：佐伯印刷

本書は、JICAが1999年～2013年まで実施した「タイ地方行政能力向上プロジェクト」の約15年にわたる取り組みの軌跡を、プロジェクト実施に関わった3名の著書がまとめたものです。このプロジェクトでは両国の学識者による共同研究として協力が始まり、相互に意見交換を重ねて「自治体間協力」を柱とした協力に発展し、同国における自治体間協力のモデルと制度づくりが行われました。本書は、タイ地方自治の改善に取り組んだ軌跡を詳細に描いています。

## ■古田元夫会員、倉沢愛子会員、若林正丈会員、西芳実会員、石井弓会員



著書名：歴史としてのレジリエンス——戦争・独立・災害

編者：川喜田敦子（中央大学）／西芳実（京都大学）

著者：古田元夫（東京大学・名誉教授）／倉沢愛子（慶應義塾大学・名誉教授）  
／石井弓（日本学術振興会特別研究員）／若林正丈（早稲田大学）／長沢栄治  
（東京大学）／日下部尚徳（東京外国語大学）／川口悠子（法政大学）／越野剛  
（北海道大学）／家田修（北海道大学）

発行年月：2016年03月

出版社名：京都大学学術出版会

災いは社会の亀裂をもたらし、その修復は何世代もの歴史のなかで行われる。戦争、革命・政変、冷戦、難民問題、原発事故……。危機への対応が新たな歪みや亀裂を生み出す状況下で、人々は何をもって誰にとっての復興に取り組んできたか。復興の捉え方の歴史的変遷や地域的相違に注目しながら、今、私たちがめざすべき社会像の手掛かりを探る。2014年から刊行が開始された「災害対応の地域研究」シリーズの第4巻。

## ■加藤弘之会員、梶谷懐会員



著書名：二重の罅を超えて進む中国型資本主義—「曖昧な制度」の実証分析

著者・編者：加藤弘之（神戸大学）、梶谷懐（神戸大学）

発行年月：2016年03月

出版社名：ミネルヴァ書房

改革開放以来、高度成長を続けてきた中国は、「中所得国の罅」と「体制移行の罅」に直面しているとされ、その持続可能性に関心が集まっている。本書では、現代中国が抱える様々な問題群を、「制度」をキーワードとした長期的なパースペクティブから考察し、また習近平政権下において「二重の罅」に陥っているか否か、そしてそこからの脱出方法があるかを、企業のイノベーションおよび格差や腐敗問題という視角から分析する。

執筆会員：巖善平会員、任哲会員、藤井大輔会員、日置史郎会員、伊藤亜聖会員、木村公一朗会員、中兼和津次会員、三竝康平会員、梶谷懐会員、渡邊真理子会員、陳光輝会員、大橋英夫会員、馬欣欣会員、星野真会員、加藤弘之会員

## ■中村元哉会員、大澤肇会員、久保亨会員、田中仁会員、杜崎群傑会員、吉見崇会員、山口信治会員、王雪萍会員、河野正会員



著書名：現代中国の起源を探る—史料ハンドブック

著者：中村元哉（津田塾大学） 大澤肇（中部大学） 久保亨（信州大学）

発行年月：2016年10月

出版社名：東方書店

本書は、政治・思想史や経済史、教育史、軍事史、民族政策史など12の章にジャンル分けをし、各ジャンルの専門家による「研究状況」と「史料紹介」が記述され、必要に応じて詳しい「史料解題」が付される。「補論」として、関係するデータベースの利用状況などを全面的に紹介している。巻末には、約50頁にわたる「研究文献・史料一覧」を附す。中国を詳しく知りたい人には、ぜひお勧めしたい1冊である。

## ■張兵会員



著書名：訪日中国人から見た中国と日本—インバウンドのあり方—

著者：張兵（山梨県立大学）

発行年月：2016年09月

出版社名：日本僑報社

訪日中国人に関する文献が増えつつあるが、その多くは、「爆買い」や情報の発信など特定の項目に焦点を当てた報道または市場攻略ガイドであり、マクロ視点の本格的な研究はまだ少ない。本書は公表されている各種のデータに基づき、中国人訪日旅行の現状と未来、またその背景となる中国の諸事情について概観し、あわせて訪日中国人から見た日本及び日本におけるインバウンドのあり方について解説、議論を行うものである。



## ■貞好康志会員



著書名：華人のインドネシア現代史—はるかな国民統合への道  
著者：貞好康志（神戸大学）  
発行年月：2016年07月  
出版社名：木犀社

インドネシアへの中国移民と子孫＝「華人」を焦点にすえた同国近現代史。オランダ植民地期に華人の一部に芽生えた「インドネシア志向」のナショナル・アイデンティティが、独立後、激動する政治社会環境との応酬のなかで、反華人暴動などの試練を乗り越え成長する過程を辿る。同時に、華人問題への取り組みを契機に、インドネシア・ナショナリズム自体の成員決定原理が「血統主義」から「属地主義」に移行したことを論証する。

## ■阿古智子会員



著書名：超大国・中国のゆくえ〈5〉 勃興する「民」  
著者：新保敦子（早稲田大学）、阿古智子（東京大学）  
発行年月：2016年07月  
出版社名：東京大学出版会

急速な経済成長の陰でさまざまな矛盾を抱え、引き裂かれる中国社会において、社会の断裂はどのように乗り越えられるのか。本書では格差の構造や揺れ動く言論空間において苦闘する人々の姿に迫り、社会変革を阻む要因を抉り出し、中国社会のゆくえを考察する。

## ■青山瑠妙会員、巖善平会員、朱建栄会員、田中修会員



著書名：2020年に挑む中国：超大国のゆくえ  
著者・編者：巖善平・湯浅健司・日本経済研究センター 編(同志社大学・日本経済研究センター)  
発行年月：2016年07月  
出版社名：文眞堂

短期的な経済の動向だけでは中国の実力は判断できず、中国指導部が目指す方向を見誤ると、将来は予想できない。本書は日中の第一線の研究者がテーマ別に分析、2020年の「100年目標」達成に向けて現在、中国の指導部が何を考え、どのような方向に導こうとしているのかを明らかにする。

## ■田村慶子会員



著書名：シンガポールの基礎知識 (アジアの基礎知識)  
著者：田村慶子（北九州市立大学）  
発行年月：2016年04月  
出版社名：めこん

本書は1人で書いたシンガポールの歴史、政治、経済、社会についての概説書である。本書全体は9章とコラム「シンガポールの10人」からなる。まず最初の「1 シンガポールはどんな国か」でイメージをつかむことができ、さらに歴史、政治や経済、社会についての章が続き、丁寧な概説と分析が記述されている。著者が撮った写真もたくさん掲載されているので、写真だけを見ても楽しいだろう。

## ◆菱田雅晴会員、鈴木隆会員



著書名：超大国・中国のゆくえ3 共産党とガバナンス  
著者・編者：菱田雅晴（法政大学）、鈴木隆（愛知県立大学）  
発行年月：2016年04月  
出版社名：東京大学出版会

経済が失速してもなお、中国共産党の支配は持続可能なのか。少子高齢化、都市化、情報化、権利意識の高まりといった新たな状況に対し、習近平政権の改革は功を奏するのか。ガバナンスをキーワードに、アクターと制度・政策の連関のなかで中国政治を読み解く。

第2巻・外交（天児慧、青山瑠妙）、第4巻・経済（丸川知雄、梶谷懐）に続くシリーズ第3巻【シリーズ全5巻／第3回配本】

## ◆永井史男会員



著書名：地方からの国づくり—自治体間協力にかけた日本とタイの15年間の挑戦  
著者：平山修一(株式会社シーエスジェイ)・永井史男（大阪市立大学）・木全洋一郎（JICA）  
発行年月：2016年03月  
出版社名：佐伯印刷

本書は、JICAが1999年～2013年まで実施した「タイ地方行政能力向上プロジェクト」の約15年にわたる取り組みの軌跡を、プロジェクト実施に関わった3名の著書者がまとめたものです。このプロジェクトでは両国の学識者による共同研究として協力が始まり、相互に意見交換を重ねて「自治体間協力」を柱とした協力に発展し、同国における自治体間協力のモデルと制度づくりが行われました。本書は、タイ地方自治の改善に取り組んだ軌跡を詳細に描いています。

## ◆古田元夫会員、倉沢愛子会員、若林正文会員、西芳実会員、石井弓会員



著書名：歴史としてのレジリエンス—戦争・独立・災害  
編者：川喜田敦子（中央大学）／西芳実（京都大学）  
著者：古田元夫（東京大学・名誉教授）／倉沢愛子（慶應義塾大学・名誉教授）  
／石井弓（日本学術振興会特別研究員）／若林正文（早稲田大学）／長沢栄治（東京大学）  
／日下部尚徳（東京外国語大学）／川口悠子（法政大学）／越野剛（北海道大学）  
／家田修（北海道大学）  
発行年月：2016年03月  
出版社名：京都大学学術出版会

災いは社会の亀裂をもたらし、その修復は何世代もの歴史のなかで行われる。戦争、革命・政変、冷戦、難民問題、原発事故……。危機への対応が新たな歪みや亀裂を生み出す状況下で、人々は何をもって誰にとつての復興に取り組んできたか。復興の捉え方の歴史的変遷や地域的相違に注目しながら、今、私たちがめざすべき社会像の手掛かりを探る。2014年から刊行が開始された「災害対応の地域研究」シリーズの第4巻。

## ◆加藤弘之会員、梶谷懐会員



著書名：二重の罟を超えて進む中国型資本主義—「曖昧な制度」の実証分析  
著者・編者：加藤弘之（神戸大学）、梶谷懐（神戸大学）  
発行年月：2016年03月  
出版社名：ミネルヴァ書房

改革開放以来、高度成長を続けてきた中国は、「中所得国の罟」と「体制移行の罟」に直面しているとされ、その持続可能性に関心が集まっている。

本書では、現代中国が抱える様々な問題群を、「制度」をキーワードとした長期的なパースペクティブから考察し、また習近平政権下において「二重の罟」に陥っているか否か、そしてそこからの脱出方法があるかを、企業のイノベーションおよび格差や腐敗問題という視角から分析する。

執筆会員：厳善平会員、任哲会員、藤井大輔会員、日置史郎会員、伊藤亜聖会員、木村公一朗会員、中兼和津次会員、三竝康平会員、梶谷懐会員、渡邊真理子会員、陳光輝会員、大橋英夫会員、馬欣欣会員、星野真会員、加藤弘之会員

## 梶谷懐会員



著書名：日本と中国、「脱近代」の誘惑—アジア的なものを再考する  
著者・編者：梶谷懐（神戸大学大学院経済学研究科）  
発行年月：2015年06月  
出版社名：太田出版

日中の安全保障上の緊張と、いま復活しつつある脱近代の思想「アジア主義」は無縁でない！グローバル資本主義にかえて「脱近代による救済」を訴え、「八紘一宇」や「帝国の復権」が露出する時代に、社会の息苦しさの原因を「外部」に求めない思想と行動の探究。

## 三重野文晴会員



著書名：金融システム改革と東南アジア 長期趨勢と企業金融の実証分析  
著者・編者：三重野文晴  
発行年月：2015年02月  
出版社名：勁草書房

東南アジアでは東アジアと異なり金融と工業化との間の「かい離」が基盤的構造となった。その点から、東南アジアでは、金融システムの構造を決めているのは資金需要サイドであり、金融システムの構造変換は資金需要サイドを決める実物部門の構造変化に依存するところが多い。この点で本書は従来からの視点を転換する必要性を訴える。

## 伊藤正子会員、中野亜里会員、遠藤聡会員



著書名：原発輸出の欺瞞—日本とベトナム、「友好」関係の舞台裏  
著者：伊藤正子（京都大学）・吉井美知子（沖縄大学）  
発行年月：2015年02月  
出版社名：明石書店

東南アジア諸国のなかで唯一、日越両政府によって合意され、本格的に実行に移されようとしている日本からベトナムへの原発輸出について、日越双方の背景と問題点を解明する。輸入する側のベトナムの知識人（ハノイと原発建設地ニントゥアン省出身者）も執筆。

## 丸川知雄会員、梶谷懐会員



著書名：超大国・中国のゆくえ4 経済大国化の軋みとインパクト  
著者：丸川知雄（東京大学）・梶谷懐（神戸大学）  
発行年月：2015年02月  
出版社名：東京大学出版会

世界第二位の経済規模を誇り、経済超大国に向かって急速に台頭する中国。経済成長は持続するのか。国内にどのような軋みを抱え、海外にいかなるインパクトを及ぼしているのか。不確実性とダイナミズムに満ちた中国経済の実像に迫り、そのゆくえを展望する。

## 岡田 実会員



著書名：ぼくらの村からポリオが消えた 中国・山東省発「科学的現場主義」の国際協力  
著者：岡田 実（JICA研究所）  
発行年月：2014年02月10日  
出版社名：佐伯印刷（株）出版事業部

「小児マヒ」の通称で知られるポリオ。日本においては1960年代にほぼ姿を消したものの、世界ではその後も猛威をふるい続けていた。なかでも、最も対応が急がれる国の一つだったのが、世界最大の人口と、貧しい農村地域を無数に抱えた中国だ。問題解決に乗り出した中国人と日本人の合同チームは、農村の深層に分け入り、ひたむきに真実を追究する。日中専門家の協力と国際社会からの支援によって、ポリオ撲滅の奇跡を達成した国際協力の記録。



## 伊藤正子会員



著書名：戦争記憶の政治学—韓国軍によるベトナム人戦時虐殺問題と和解への道  
著者：伊藤正子（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）  
発行年月：2013年10月11日  
出版社名：平凡社

ベトナム戦争で韓国軍が虐殺行為を行っていた—『ハンギョレ21』の告発は韓国世論を戦慄させ、事実の解明と謝罪を求めるNGOの活動と、「正義の戦争」に拘泥する保守派の反発を招いた。一方、被害者であるはずのベトナム政府は経済発展を優先し、事件を封印している。戦争をめぐる記憶のあり方は、同様の問題をいまだ抱える日本にも新たな視座を提供する。

## 鈴木隆会員、田中周会員、小原江里香会員、角崎信也会員



著書名：転換期中国の政治と社会集団  
著者：鈴木隆(愛知県立大学)・田中周(早稲田大学)編  
発行年月：2013年10月  
出版社名：国際書院

エリートと大衆、都市と農村の断層などを抱えながら、中国は劇的な変化を続けている。本書ではさまざまな専門領域・問題意識から社会集団の変化の実態を明らかにし、社会の側から国家・社会関係の変容を考察する。

## 遠藤正敬会員



著書名：戸籍と国籍の近現代史 民族・血統・日本人  
著者：遠藤正敬(早稲田大学)  
発行年月：2013年9月30日  
出版社名：明石書店

日本国家は歴史的に「国籍」のみならず「民族」「血統」といった概念を、「戸籍」という装置を用いて操作してきた。戸籍は東アジアにおける伝統的な身分登録制度であるが、これが近代日本においていかにして「日本人」をめぐる対外的・対内的な境界線を多層的に形成し、「日本人」を支配してきたのか。その一方、人の越境的移動が活発化し、多様な「血」の混淆が進行する近代社会のダイナミズムに際して戸籍による「国民」統合はいかなる矛盾を抱えてきたのか。日本独自ともいわれる戸籍制度の存在意義を問うことによって、「民族」「血統」とは、そして「日本人」とは何であるのかを再考する。

## 嶋田晴行会員



著書名：現代アフガニスタン史—国家建設の矛盾と可能性  
著者：嶋田晴行(JICA南アジア部)  
発行年月：2013年07月30日  
出版社名：明石書店

9.11以降、再び世界の注目を浴びるようになったアフガニスタンは、元々「国家」としてのまとまりがある領域ではない。ではなぜ欧米や国連といった国際機関、そして日本は国家建設を支援してきたのか？それにもかかわらず、なぜその試みは成功しないのか？主に2001年以降の「アフガニスタン」の国家建設とそれへの支援を題材に、「国際社会」と呼ばれる外部の理念と当地の現実との乖離を浮き彫りにすることを目指した書である。

■舛谷鋭会員、豊田三佳会員、高安健一会員、駒見一善会員



著書名：シンガポールを知るための65章  
著者：田村慶子（北九州市立大学）  
発行年月：2013年5月25日  
出版社名：明石書店

初版『シンガポールを知るための60章』、第二版『シンガポールを知るための62章』に続く第三版である。この第三版では、シンガポールの歴史、社会、文化、暮らし、経済、政治や国際関係など従来の内容に加え、2011年5月総選挙とその後の政治変動、政府の近年の文化振興政策によって盛んになった演劇、映画、文学についての章を加味して、より充実したものとなった。「シンガポール地名あれこれ」や「シンガポール初の五輪選手」など短いコラムも6つ掲載している。

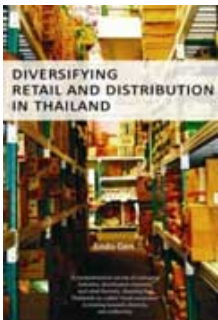
■田村慶子会員



著書名：多民族国家シンガポールの政治と言語：「消滅」した南洋大学の25年  
著者：田村慶子（北九州市立大学）  
発行年月：2013年3月26日  
出版社名：明石書店

シンガポールで1956年に開学して1980年に「消滅」した、南洋大学という私立の華語大学（華語を主な教育言語とする大学）の歴史的役割と意義を、独立へ向かうイギリス自治領シンガポールおよび、独立シンガポール国家の生き残り政策と国民統合政策、隣国マラヤ連邦（後のマレーシア連邦）や植民地宗主国イギリスとの関係、アジア冷戦の深化という国際関係のなかで、分析した研究書である。

■遠藤 元会員



著書名：Diversifying Retail and Distribution in Thailand  
著者：Endo Gen（遠藤 元・大東文化大学）  
発行年月：2013年2月  
出版社名：Silkworm Books

This book analyzes Thailand's retail structure in the light of its entire distribution system, examining how changes have affected not only horizontal, competitive relationships between modern and traditional retailers, but also vertical relationships with manufacturers and wholesalers. Rather than focusing narrowly on the urban middle-class consumer market, he considers the markets' income differentials-the "mosaic structure"-which is an indispensable framework for discussing the retail and consumption practices of an emerging economy.

■岡田 実会員



著書名：ぼくらの村からポリオが消えた 中国・山東省発「科学的現場主義」の国際協力  
著者：岡田 実（JICA研究所）  
発行年月：2014年02月10日  
出版社名：佐伯印刷（株）出版事業部

「小児マヒ」の通称で知られるポリオ。日本においては1960年代にほぼ姿を消したものの、世界ではその後も猛威をふるい続けていた。なかでも、最も対応が急がれる国の一つだったのが、世界最大の人口と、貧しい農村地域を無数に抱えた中国だ。問題解決に乗り出した中国人と日本人の合同チームは、農村の深層に分け入り、ひたむきに真実を追究する。日中専門家の協力と国際社会からの支援によって、ポリオ撲滅の奇跡を達成した国際協力の記録。



## 伊藤正子会員



著書名：戦争記憶の政治学—韓国軍によるベトナム人戦時虐殺問題と和解への道  
著者：伊藤正子（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）  
発行年月：2013年10月11日  
出版社名：平凡社

ベトナム戦争で韓国軍が虐殺行為を行っていた—『ハンギョレ21』の告発は韓国世論を戦慄させ、事実の解明と謝罪を求めるNGOの活動と、「正義の戦争」に拘泥する保守派の反発を招いた。一方、被害者であるはずのベトナム政府は経済発展を優先し、事件を封印している。戦争をめぐる記憶のあり方は、同様の問題をいまだ抱える日本にも新たな視座を提供する。

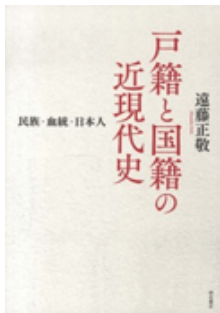
## 鈴木隆会員、田中周会員、小原江里香会員、角崎信也会員



著書名：転換期中国の政治と社会集団  
著者：鈴木隆(愛知県立大学)・田中周(早稲田大学)編  
発行年月：2013年10月  
出版社名：国際書院

エリートと大衆、都市と農村の断層などを抱えながら、中国は劇的な変化を続けている。本書ではさまざまな専門領域・問題意識から社会集団の変化の実態を明らかにし、社会の側から国家・社会関係の変容を考察する。

## 遠藤正敬会員



著書名：戸籍と国籍の近現代史 民族・血統・日本人  
著者：遠藤正敬(早稲田大学)  
発行年月：2013年9月30日  
出版社名：明石書店

日本国家は歴史的に「国籍」のみならず「民族」「血統」といった概念を、「戸籍」という装置を用いて操作してきた。戸籍は東アジアにおける伝統的な身分登録制度であるが、これが近代日本においていかにして「日本人」をめぐる対外的・対内的な境界線を多層的に形成し、「日本人」を支配してきたのか。その一方、人の越境的移動が活発化し、多様な「血」の混淆が進行する近代社会のダイナミズムに際して戸籍による「国民」統合はいかなる矛盾を抱えてきたのか。日本独自ともいわれる戸籍制度の存在意義を問うことによって、「民族」「血統」とは、そして「日本人」とは何であるのかを再考する。

## 嶋田晴行会員



著書名：現代アフガニスタン史—国家建設の矛盾と可能性  
著者：嶋田晴行(JICA南アジア部)  
発行年月：2013年07月30日  
出版社名：明石書店

9.11以降、再び世界の注目を浴びるようになったアフガニスタンは、元々「国家」としてのまとまりがある領域ではない。ではなぜ欧米や国連といった国際機関、そして日本は国家建設を支援してきたのか？それにもかかわらず、なぜその試みは成功しないのか？主に2001年以降の「アフガニスタン」の国家建設とそれへの支援を題材に、「国際社会」と呼ばれる外部の理念と当地の現実との乖離を浮き彫りにすることを目指した書である。

■舩谷鋭会員、豊田三佳会員、高安健一会員、駒見一善会員



著書名：シンガポールを知るための65章  
著者：田村慶子（北九州市立大学）  
発行年月：2013年5月25日  
出版社名：明石書店

初版『シンガポールを知るための60章』、第二版『シンガポールを知るための62章』に続く第三版である。この第三版では、シンガポールの歴史、社会、文化、暮らし、経済、政治や国際関係など従来の内容に加え、2011年5月総選挙とその後の政治変動、政府の近年の文化振興政策によって盛んになった演劇、映画、文学についての章を加味して、より充実したものとなった。「シンガポール地名あれこれ」や「シンガポール初の五輪選手」など短いコラムも6つ掲載している。

■田村慶子会員



著書名：多民族国家シンガポールの政治と言語：「消滅」した南洋大学の25年  
著者：田村慶子（北九州市立大学）  
発行年月：2013年3月26日  
出版社名：明石書店

シンガポールで1956年に開学して1980年に「消滅」した、南洋大学という私立の華語大学（華語を主な教育言語とする大学）の歴史的役割と意義を、独立へ向かうイギリス自治領シンガポールおよび、独立シンガポール国家の生き残り政策と国民統合政策、隣国マラヤ連邦（後のマレーシア連邦）や植民地宗主国イギリスとの関係、アジア冷戦の深化という国際関係のなかで、分析した研究書である。

■遠藤 元会員



著書名：Diversifying Retail and Distribution in Thailand  
著者：Endo Gen（遠藤 元・大東文化大学）  
発行年月：2013年2月  
出版社名：Silkworm Books

This book analyzes Thailand's retail structure in the light of its entire distribution system, examining how changes have affected not only horizontal, competitive relationships between modern and traditional retailers, but also vertical relationships with manufacturers and wholesalers. Rather than focusing narrowly on the urban middle-class consumer market, he considers the markets' income differentials-the "mosaic structure"-which is an indispensable framework for discussing the retail and consumption practices of an emerging economy.